この親の元に

エプロン通信員　末吉　郁子

昨年の秋、大阪の父が倒れた。

運動会のシーズンで母だけが息子の為に来沖していて、母を空港まで送り、自宅に着くとすぐ電話が鳴ったのだ。誰もいない家で倒れたのではなく、職場で仲間の目前での出来事だったため、すぐに近くの病院に運ばれた。脳梗塞だったが軽度で済んだため、突然の事に相当なショックを受けている父とは裏腹に家族はひとまず胸をなでおろしていた。

私も単身、大阪へ飛んだ。毎日、病院に通うともどかしそうに筆談する父。なかなか伝えられず、こちらが答えを口に出すと（そうそう！）と泣き笑いになる。不本意な形で職場を去ることになった無念さもあったであろう・・・はじめて見る父の涙。しかし、私はその涙をみて「泣けるんなら大丈夫だ。きっとこの人はすぐに回復する」と安心したのだった。

そして、穏やかに父を励ます母。元々、仲の良い夫婦ではなかったが、本来の優しさを見せてくれた母の姿が嬉しく、かわいらしかった。

実家での夜、いつも里帰りは幼い息子とペアなので、この時は母とゆっくり二人だけで話す。

この先、父がいなくなり、残った母が自分で身の周りのことができなくなった時のこと。母は、もうその先のことまで案じ、私たち子供に一切の負担をかけまいと先立つ物まで準備していた事を知り、がく然とした。

この人は、どこまで「母」なのだろうと。

寂しさすらあった。私は母の顔をみれず、複雑な胸の重さに目を伏せてしまった。自分が子を産み、育児を始めてやっとわかったこと。私はなんと誇らしく器の大きな人の元で育ったのか。

得意の無鉄砲で反対を押し切り、移住した沖縄に二年で帰るつもりがこの土地に嫁ぐことになり、さんざん悩みのタネを運ぶ私が「お母さん、心配ばっかりかけてごめん」とベソをかくと、すかさず「何言うてんの。大変なんはこれからよ」と明るく言い放った母。

今では私の最も尊敬する母親像、それはわが姉、そして愛しのわが母である。

茶ぐわーゆんたく 54

菊は長寿に効く!?

〝菊酒〟という行事をご存知ですか？

旧暦九月九日（今月七日）に行うので ウングワチクニチ（九月九日）とも言う 健康祈願の行事です 元は中国の行事でした。

奇数は縁起の良い陽の数字で、最大の九が月日に重なる九月九日はめでたい日とされ 陽の数字が重なるので「重陽の節句」とも言います この日に邪気を祓い長寿に効くとされる菊の花を浮かべた菊酒を飲む風習がありました その由来には 中国・周の穆王に可愛がられた慈童という召使の話があります。

ある日 慈童が掃除中に王の枕をまたぐという罪をおかし、山奥に追放されました 罪とはいえ かわいそうに思った王は経文を授け 慈童はそれを忘れないように川の側に咲く菊の葉に書いておきました。

すると その葉の露が川に流れ込んで霊薬となり これを飲んだ慈童は美少年の姿のまま八百歳以上生きたそうです この話から菊酒の行事が生まれました。

菊酒の沖縄への伝来は不明ですが 菊の花ではなく葉を用いるのが一般的なようで 宜野湾の集落でも一～三枚の葉を浮かべた酒を火の神や仏壇に供えます この機会に健康を願って菊酒を用意してみてはいかがでしょうか。

なお 宜野湾の年中行事については『宜野湾市史』第5巻 民俗編に記載されております ぜひご覧ください。

宜野湾市花でもある菊

菊の葉を浮かべた盃

「宜野湾市史」への問い合わせ
教育委員会文化課
☎八九三一四四三〇